

令和7年度 授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	浦安市立明海中学校
-----	---------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- ・hyper-QU（R6 実施）では「人とのかかわり」について、全国に比べて低い結果となっている。
 - ・全国学力・学習状況調査の質問調査では「自分と違う意見に対して考えることは楽しいですか？」という項目が全国・県平均を下回っており、相互理解、合意形成が希薄であることがわかった。
 - ・昨年度の道徳および自己実現に関するアンケートでは、生徒は大切な物事の決断について、「自分で決める能力をもっていると思う」が全体の74%である反面、「自分で決めたことは不安でうまくいかないことが多いと思う」が全体の47%という結果であった。また、「自己決定を周囲に聞いてもらえる、認めてもらえると思う」が72%である反面、「誰かに決めてもらったほうが良い結果を生むと思う」が41%という結果が出ている。
- このことから、「自尊感情」と「つながり」に隔たりがあることがわかった。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○研究主題 自ら答えを見出し実践できる生徒の育成（問題発見・解決能力の育成）

- ・学校全体で教師が特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）を推進し、話し合い活動・集団活動を充実させることで、生徒の人間関係力、社会性が向上し、問題発見・解決能力を育成できるであろう。
- ・総合的な学習の時間において、「探究」する活動のプロセスを通して、自ら課題を見出し、問いを作り、調査分析して成果と課題を見出させることで、生徒の問題発見・解決能力を養い、地域の活性や多文化共生社会で協働的な活動を実践する生徒を育成できるであろう。以上を踏まえて、特別活動と総合的な学習を柱にする。

3. 具体的な実践

- 生徒の人間関係力・社会的能力の育成するために、Social and Emotional Learning（SEL-8）という手法を特別活動に取り入れる。
- 学級活動において、自分たちの課題を取り上げ、問題解決に向けて考え、実践する。
- 総合的な学習の時間において、「PBL」という手法を用いて「探究的な学習」の充実を図ることで、生徒の問題発見・解決能力を養う。
- 各教科の単元末において、発展的な課題を課すことを通して、各教科のエンピテンシーを養う。

4. 成果

SEL アンケート結果	9月	12月	比較
①自己への気づき	97.9	103.6	5.7
②他者への気づき	87.9	98.2	10.4
③自己のコントロール	78.2	83.6	5.4
④対人関係	80.7	87.1	6.4
⑤責任ある意思決定	86.8	94.6	7.9
⑥生活上の問題防止のスキル	91.1	102.9	11.8
⑦人生の重要事態に対処する能力	83.9	89.3	5.4
⑧積極的・貢献的な奉仕活動	78.9	93.2	14.3

- SEL－8を2学年を中心に実践した。9月と12月に社会性に関するアンケートを行った結果、各項目で上昇が見られた。普段の生活で授業で学んだことの実践の場面を設定したり、様々な職員が関わり、個別最適な手立てを支援を含めて講じたりした総合的な結果だと考える。
- 社会性について生徒たちが生活の中で口にする場面が出ており、実践の内容を意識付けることが徐々にできていると感じた。
- 講師の方を招き、SEL－8やPBLについて学校全体で知見を深めることができた。
- PBLを1学年中心に実践した。住んでいる街をテーマに各々が調べたり、話し合ったり、地域の方に意見を聞いて交流を深めたりすることができた。また、成果物として来年度の地域のイベントに採用できる案もあり、一定の成果が見られた。

◆担当指導主事から

- 自校の課題を的確に捉え、SEL－8やPBLといった具体的方策を用いて、改善に向けた実践をしている。
- SEL－8やPBLについて学校全体で知見を深めており、指導者の資質向上につながっている。
- 全国学力・学習状況調査や学校独自で実施しているアンケート結果を有効活用できている。
- 汎用性の高いカリキュラム作成に向けて、今後も研鑽を積んでほしい。